

前期始業式 校長講話

新2年生64名、新3年生67名、進級おめでとうございます。明日の入学式では51名の新入生が登校する予定になっています。昨年より10名ちょっと全校生徒数が減ってしまいますが、生徒会活動や部活動が下降線となることのないように工夫をしてみてください。それから、これは昨年も言ったことですが、困難にぶつかった時に頑張ってその壁を乗り越える努力も必要ですが、一人で抱え込んでしまわないように身近な人、友達、先生、保護者等に相談をしてみてください。

10日ほど前の平成30年度末終業式では、「好きこそ物の上手なれ」というテーマで話をしました。私の高校サッカー部時代のN君の話でしたが、覚えていますよね。好きな物を見つけそれに邁進することがどれだけのエネルギーを生むか、だから皆さんにも好きな物、熱中できるものを見つけてほしいと伝えました。今後の生活の中で頭の片隅に置いておいてください。

その終業式の直前、3月21日の夜中、厳密には3月22日未明、とても素敵な記者会見が行われました。大リーグ、シアトルマリナーズ所属のイチロー選手の引退会見です。イチロー選手については、説明が必要のないほどの名選手ということは皆さんご存知ですよね。イチロー選手ですが、普段はマスコミの取材に長々と応答するということはありませんでした。しかし、引退の会見は1時間半にも及びました。その一言一言に日本中の多くの人、いや世界中の人々が感動したのではないのでしょうか。珠玉という言葉があります。「美しいもの、すぐれたもの、尊いもの」という意味ですが、イチロー選手が記者会見で発した言葉は、まさに珠玉の言葉ばかりでした。その中からいくつか私の印象に強く残ったものを取り上げてみます。

記者会見の冒頭で、引退の決断に後悔や思い残すことはないかと問われ、「今日のあの球場での出来事、あんなものを見せられたら、後悔などあろうはずがありません」と答えられました。試合後、満員の観客が全員スタンディングオベーションでイチロー選手に拍手を送ったことに対してそのように答えたわけですが、学ぶべきことはその後につけられた言葉でした。「人より頑張ったということは全くないですが、自分なりに頑張ってきたということははっきり言えるので。これを積み重ねてきて、重ねることでは、後悔を生まないということはできないのではないかなと思います」と。努力を積み重ねること、それこそが後悔を生まないことなのですね。

後悔ということに関して、他の記者からも質問がありました。プロ野球選手になる夢を叶えて成功した今、何を得たと思うかと質問されました。それに対して、「成功するからやってみたい。それができないと思うから行かないという判断基準では、後悔を生むだろうなと思う」と答えていました。さらに、『やりたい』ならやってみればいい。『できる』と思うから挑戦するのではなく『やりたい』と思えば挑戦すればよい。その時にどんな結果が出ても、後悔はないと思うんですよね」と続けていまし

た。先ほど、後悔しないためには努力を積み重ねることだという言葉を紹介しましたが、やりたいことにまっしぐらに進むことも後悔をしないことに繋がるのでしょうか。イチロー選手の行動の価値基準は、いかに後悔しないで生きていくことなのかもしれません。

イチロー選手は常々、「最低 50 歳まで現役」と言っていたが、実際には 45 歳で引退を迎えました。それが叶わなかったことについて、こんなことも述べていました。「(50 歳まで現役と) 言葉にすること。難しいかもしれないけど、言葉にして表現することというのは、目標に近づく一つの方法ではないかと思います」と言い、その表現をしてこなかったら、ここまでできなかったかもしれないと。つまり、言葉にすることで自らを追い込み、逃げることを許さなかった、あるいは許せなかったのではないのでしょうか。

まだまだ珠玉の言葉はたくさんありますが、最後にもう一つ紹介します。会見終了直前に、質問の意図とは少し違うかもしれないがと断りつつ、こんなことを発していました。「アメリカに来て、メジャーリーグに来て、外国人になったこと。アメリカでは僕は外国人ですから。外国人になったことで、人の心を慮ったり、人の痛みを想像したり、今までなかった自分が表れたんですよね。この体験というのは、本を読んだり情報を取ることはできても、体験しないと自分の中から生まれてこない」と。

多数派の中にいたら気が付かないことも、自らが少数派になることで見えてくるものもあるんだと。これは昨年、海外語学研修の経験を生かして総合研究を進めた人たちにも通じるものがありました。カナダに外国人として行ってみて不自由と感じたこと、それと同じものを、木曽を訪れている外国人観光客も感じているのではないかならば、その人たちの立場に立って思考し、さらに外国人観光客が過ごしやすい環境を整えようと思い立ち、結果として英語による駅前案内マップや注意書き等の作成に至ったわけです。

昨今、高校生にも留学の経験をという声が強まっています。海外で生活することで、また新たな自分が発見できると言われています。私もその考え方に異を唱えるわけではありませんが、まずは自分が多数派という慣れ親しんだ安心感のある場所から、孤独を感じる少数派の立場に立つことで、そこから人の痛みを理解できるようになるのではないのでしょうか。海外留学を含めて、自分の周りにある殻を破って飛び出すことで見いだせるものがあるとイチロー選手は言っているのではないのでしょうか。

さて、明日の入学式を経て、来週から 3 学年揃い踏みの高校生活が始まります。今年度も蘇南高校を盛り上げてもらえるよう皆さんにお願いし、年度初めの講話といたします。

蘇南高等学校長 小幡 正樹